

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA企画展

79 億の他人

この星に住む、すべての「わたし」へ



世界人口約 79 億人。

いかに多様であるか、いかにコミュニケーションをするか。

12 組のアーティストの表現から考える展覧会。

2021 年現在、およそ 79 億の他人が、地球の上で共存しています。めいめいの身体、人種、性、思考、社会的立場―79 億通りに枝分かれする個性は、わたしを唯一無二のわたしとして同定すると同時に、わたしとそれ以外の人間とを分断してもいます。

「79 億の他人」は、12 組の出展者による表現を通して、人と人との間の差異、あるいはその差異の上でいかなるコミュニケーションが編まれるか、これらを照射する展覧会です。



上：北野謙 <our face> 近江高校野球部員 42 人を重ねた肖像

2002 年 9 月 12 日

滋賀県彦根市近江高等学校グラウンド

下：重症心身障害者通所施設えがお

鈴木彩華 無題 2020

展覧会概要

タイトル 79 億の他人 ―この星に住む、すべての「わたし」へ

会場 ①ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上 16）
②まちや倶楽部（滋賀県近江八幡市仲屋町中 21）

会期 2021 年 9 月 18 日（土）～11 月 21 日（日）

開催時間 11：00～17：00

休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）

観覧料 共通券 500 円（450 円） 一館チケット 300 円（250 円）

※中学生以下無料、障害のある方と付添者 1 名無料 （ ）内は 20 名以上の団体料金

無料開館 関西文化の日 11 月 13 日（土）、14 日（日）

主催 社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～

後援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協力 社会福祉法人さふらん会、社会福祉法人創樹会、社会福祉法人びわこ学園、MEM

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人事務局芸術文化部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）

担当：山田 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837-2

TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

■ 展覧会の見どころ

この時代の「わたしらしさ」について考えさせてくれます。

いくつもの文化の狭間に生きる人々のアイデンティティを捉える金仁淑、82 歳から絵を描き始めた土方紘いとその孫でイラストレーターのヒジカタクミのコラボレーションなど、コミュニティ、年齢、国籍、家族、障害など、さまざまな角度から、「わたしらしさ」を見つめる表現を展示します。



金仁淑 <The Real Wedding Ceremony> 2016

言葉を越えたコミュニケーションがあります。

五十嵐英之と倉地雅徳が 30 年近く続ける、交互に絵を描き合う絵のセッションで生まれてきた作品や、重症心身障害者の人々が支援者とともに、創作活動を行う中で生まれた作品などを展示します。言葉だけでない、コミュニケーションのあり方を、表現の中に見て取ることができます。



五十嵐英之と倉地雅徳
「交叉・対面型・相互描画法によるドローイング」2015

誰もが美術鑑賞を楽しめるようにするための チャレンジを行いました。

本展に出展者する「みんなの“鑑賞”」は、知的障害者、盲ろう者、支援者、空間デザイナー、NO-MA 学芸員がメンバーとなり、障害の有無に関わらず、美術作品を楽しんでいただくために、どんな方法があるのかを考えるプロジェクトです。本展では、このプロジェクトの成果展示を行います。



みんなの鑑賞 2「しが盲ろう者友の会の人たちと考える」

検討会の様子 2021

—— プレスの皆様を対象とした内覧会のお知らせ ——

プレスの皆様を対象とした内覧会を実施し、本展覧会の内容を担当学芸員から説明いたします。参加される方は事前に担当までご連絡ください。

日 時 9 月 18 日 (土) 10:00~12:00

集合場所 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

連絡先 社会福祉法人グロー 法人事務局芸術文化部 担当：山田

TEL: 0748-46-8100 FAX: 0748-46-8228 MAIL: kikaku@glow.or.jp

2つの会場と出展者

■ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（近江八幡市永原町上 16）

会場テーマ：Living with Others めいめいのひとびと

（1）北野謙 Kitano Ken 東京都出身 東京都在住 1968- 自己と他者の存在、自己と社会の関係について思考するプロジェクトを行い、作品を制作している。世界各地の様々な文化や立場の集団を訪ねて撮影し、数十人の肖像を暗室で多重露光して一枚の写真に焼きつけた「our face」などのシリーズがある。	 「our face」 近江高校野球部員 42 人を重ねた肖像 2002 年 9 月 12 日 滋賀県彦根市近江高等学校グラウンド
（2）田辺慶大 Tanabe Yoshihiro 滋賀県出身 滋賀県在住 1999- 代表的なシリーズの一つに《天使のほほえみ》がある。これは、地域広報誌の、1 歳児を顔写真付きで紹介する同名のコーナーに由来する制作で、彼は、ここに掲載された実在の 1 歳児を網羅的に描いてきた。	 《いろんな兄弟ならべてみたよ》 2015
（3）八幡亜樹 Yahata Aki 東京都出身 大阪府在住 1985- 映像インスタレーションを、『「人類の表現＝生きること」のための思考装置』と捉え、取材をベースとした作品制作を行なっている。本展で展示する映像作品《Kahlek 2017》は、ミクロネシア連邦のピングラップ環礁にある、ピングラップ島民にクローズアップした映像である。島民は 250 人ほどいる。この島では、世界的にも大変珍しい高確率で 1 色覚（全色盲）、つまり、世界が白黒に見える人が生まれる。	 《Kahlek 2017》 2017
（4）金仁淑 Kim Insook 大阪府出身 東京都在住 1978- 大阪に生まれた金は、2003 年に韓国へ渡り、以降、ソウルと東京を拠点に国内外の展覧会に参加している。在日・在独コリアンの家族や朝鮮学校、街のコミュニティの人々とプロジェクトを行い、いくつもの文化の狭間に生きる人々のアイデンティティ、伝統、民族、家族の問題を浮き彫りにする作品を発表してきた。	 金仁淑《The Real Wedding Ceremony》2016

(5) 土方 𧄞いとヒジカタクミ

Hijikata Ei & Hijikata Kumi

𧄞い 愛知県出身 愛知県にて活動 1914-2016

クミ 愛知県出身 東京都在住 1976-

大正生まれの土方 𧄞いは、82 歳になってから絵を描き始めた。ヒジカタクミはイラストレーターとして活動している。クミは 𧄞いの孫である。老境にあつて、奔放な絵を描きだした 𧄞いに、クミは感銘を受けた。そして、自らのイラストと 𧄞いの絵を組み合わせたコラボレーション作品を発表したり、2 人展の開催を実現した。



𧄞いとクミ
(K. Art Studio で 2011 年 10 月に撮影)

■まちや倶楽部（近江八幡市仲屋町中 21）

会場テーマ：All Possible Communications あなたと、わたしの、あいだ

(6) 五十嵐英之と倉地雅徳

Igarashi Hideyuki & Kurachi Masanori

五十嵐 京都府出身 京都府在住 1964-

倉地 京都府出身 岡山県在住 1979-

1994 年から、「相互描画法」と名付けられた二人の描き合いが始まった。きっかけとなる絵を五十嵐が描き、それを見た倉地が選んだ紙の上に自分の絵として展開させ、またそれに反応して五十嵐が描いていく絵のセッションを 30 年近く続けている。

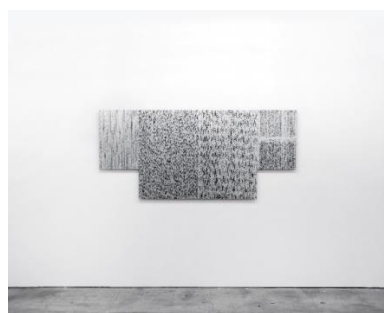


交叉・対面型・相互描画法によるドローイング
「倉地雅徳×五十嵐英之 Live with Drawing 一人はなぜ「絵」を描き続けるのか」
2015（薬工ミュージアム）展示風景より

(7) intext（インテキスト）

結成：2011 頃-

intext は、外山央、真下武久、見増勇介によるグループである。言語、文字、書法、印刷、読書、色など、デザイン・プロセスに伴う一定の様式をユニークな視点で捉えなおし、そこから生まれる新たなコミュニケーションの可能性を基軸に展開を続ける。



«dimensional wall»
2018
Photo: intext

(8) 重症心身障害者通所施設えがお

Day Center for Severely Disabled People EGAO
滋賀県所在地

池内亮介、後藤大輔、清水希、鈴木彩華、廣部敬倅
Ikeuchi Ryosuke, Goto Daisuke, Shimizu
Nozomi, Suzuki Ayaka, Hirobe Takayuki

滋賀県長浜市にある、重症心身障害者通所施設えがおで行なわれている創作活動。この活動には同施設の利用者 5 人が参加している。活動に携わる支援者は、5 人それぞれの得意なこと、関心のあること、または身体可動域などを鑑み、画材や描画方法を模索し、各参加者の活動につなげている。



鈴木彩華 無題
2020

(9) 佐々木卓也 Sasaki Takuya

東京都出身 東京都在住 1975-

本展では、粘土で作られた女性のシリーズを展示する。すべての女性像が、折り曲げた左手でまっすぐに伸ばした右ひじの内側に触れる、または右ひじの内側に唇を当てるという独特の姿勢を保持している。母によれば、「小さい頃、自分もよくそうしていたから彼にとってその部分（右ひじの内側）は心の安らぐ大切な場所」であるそうだ。



ゆみかちゃん
2001

(10) 武田憲昌 Takeda Norimasa

広島県出身 広島県在住 1970-

1990 年代中頃より、自身が暮らしている福祉施設で働く支援者のうち、気になる数名にまつわるものを集め始める。また、それら好きな支援者とその家族に関する情報を、当の支援者や自身の母らにお願いして書いてもらったメモ紙も保存。その膨大な集積の中から選んだ紙や収集物の一部をセロテープや輪ゴムで束ねてかたまりをつくり、大切に持っていた。この収集の営みは現在も続いている。



無題
制作年不詳

(11) 藤本正人 Fujimoto Masato

愛知県出身 愛知県在住 1967-

藤本正人は、カセットテープの入ったケースに、20cm ほどの長さの刺し子糸を輪ゴムで留めた、振り子のようなもの（以下、「振り子」と呼ぶ）をつまみ持ち、くると回る様子を眺めながら、1 日を過ごしている。黙々と振り子を見つめ続ける、そんな生活を 40 年に渡って続けてきた。



『Negative capability -くつろいでいられる能力-』2019 より
©「ボコラート全国公募展 vol.9」
主催：千代田区、アーツ千代田 3331

(12) みんなの“鑑賞”

“Art Appreciation” for All

誰もがアートを楽しめるように、美術鑑賞の方法を、知的障害のある人や盲ろう者が、アーティストらと一緒に考えるプログラム。

・みんなの“鑑賞” 1

障害者支援事業所いきいき+野原健司と考える。

プロジェクトメンバー

河原崎未識 Kawarasaki Misato、外山聖 Toyama Satoshi、野原健司 Nohara Kenji、森美菜子 Mori Minako、安田真一郎 Yasuda Shinichiro

・みんなの“鑑賞” 2

しが盲ろう者友の会の人たちと考える。

プロジェクトメンバー

岡田昌也 Okada Masaya、岡本克司 Okamoto Katsushi、北川雅貴 Kitagawa Masaki、野中美智子 Nonaka Michiko、安川雄基 Yasukawa Yuki

※「みんなの“鑑賞”」は同時開催企画「ニューノーマル時代にアートで人をむすぶプロジェクト」の一環として行うもの。



みんなの鑑賞2「しが盲ろう者友の会の人たちと考える」 検討会の様子 2021

■本展における新型コロナウイルス対応について

来場される方には、以下の対応をお願いします。

- ・体調不良（発熱・咳・咽頭痛・味覚障害などの症状）のかたはご来場をご遠慮いただきます。
- ・マスク着用、こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒をお願いします。
- ・観覧中は、他の人と接触しない程度の間隔を確保してください。（障害のある方などの誘導、解除を行う場合は除きます）
- ・来場者が多い場合は、入場を制限させていただくことがあります。
- ・大きな声での会話はご遠慮いただきます。

主催者として、以下の新型コロナウイルス対策を徹底します。

- ・スタッフは毎日、検温・体調確認を行い健康管理に努めます。
- ・スタッフはマスク着用の上で案内します。また、こまめな手洗いを行います。
- ・館内のドア、手すり、トイレなど、手を触れられる箇所の消毒を強化します。
- ・館内は密閉した空間にならないよう、定期的に換気を行います。

■NO-MAのインスタグラムをフォローしませんか？

NO-MAのインスタグラムが始まりました。フォローしてくださった方は、観覧料から 100 円割引します。チケット購入時に、フォロー中の画面を、受付スタッフにお見せください。

さらに、記事を投稿いただいた方には、ポストカードをプレゼントします（用意分が無くなり次第終了）。詳しくは、会場の受付スタッフにお聞きください。

※「79 億の他人」会期中のみのキャンペーンです。「ボーダレスの証明 はたよしこという衝動」展には適用されませんので、ご注意ください。



広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人事務局芸術文化部
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛
FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、F A Xまたはメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- (1) キャプションは、作家名、作品名、制作年を必ず表記ください。
- (2) 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- (3) 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌（紙）、DVD、CD 等をお送りください。

媒体名：

『

』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

E メールアドレス：

@

(〒 -)

ご住所：

お電話番号：

FAX：

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

☐	①北野謙	《our face》 近江高校野球部員 42 人を重ねた肖像 2002 年 9 月 12 日 滋賀県彦根市近江高等学校グラウンド
☐	②田辺慶大	《いろんな兄弟ならべてみたよ》 2015 年
☐	③八幡亜樹	《Kahlek 2017》 2017 年
☐	④金仁淑	《The Real Wedding Ceremony》 2016 年
☐	⑤土方冴いとヒジカタクミ	冴いとクミ (K.Art Studio で 2011 年 10 月に撮影) 2011 年
☐	⑥五十嵐英之と倉地雅徳	「交叉・対面型・相互描画法によるドローイング」 2015 年 藁工ミュージアム展示風景より
☐	⑦intext	《dimensional wall》 2018 年
☐	⑧重症心身障害者通所施設えがお	鈴木彩華 無題 2020 年
☐	⑨佐々木卓也	《ゆみかちゃん》 2001 年
☐	⑩武田憲昌	無題 制作年不詳
☐	⑪藤本正人	『Negative capability -くつろいでいられる能力-』2019 より ©「ポコラート全国公募展 vol.9」 主催：千代田区、アーツ千代田 3331
☐	⑫みんなの“鑑賞”	みんなの鑑賞 2「しが盲ろう者友の会の人たちと考える」 2021 年

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人事務局芸術文化部 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当：山田 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837-2

TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp